

SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST.(2020)95(1) February 2020

GSJ コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY



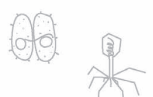












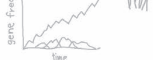

GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会

<https://gsj3.org>

目 次 頁

	2020年度日本遺伝学会年会費ご納入のお願い	3
	大会ニュース (その2)	4
	惜別 追悼 関口睦夫名誉会員 (1932-2019) 真木寿治	6
	日本遺伝学会第91回大会 収支報告書	9
	ISEGB 2019 派遣学生 体験記	10
	第2回日本遺伝学会春季分科会の中止について	12
	第19回遺伝学談話会報告	13
	日本遺伝学会木原賞および奨励賞候補者推薦のお願い	14
	2020年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書	15
	2020年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書	17
	本 会 記 事	
	会員異動	19
		
		
		

2020年度日本遺伝学会年会費ご納入のお願い

平素より皆様には日本遺伝学会の発展に対し、いろいろとご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2020年度日本遺伝学会年会費を、下記郵便振替口座までご納入下さいますよう、よろしくお願いたします。なお、年会費のご納入をクレジットカードにてお支払いいただく場合、ご利用方法の詳細を学会 HP の各種手続きをご参照くださいますようお願いいたします。

普通会員	10,000円
学生会員 ^(注1*)	3,000円（学生会員は初年度会費は免除）
シニア普通会員	6,000円
シニア永年会員	初回のみ 30,000円、以降の年会費は免除
教育会員	2,000円

(注1*) 学部学生と大学院生が対象です。郵便振込の場合、振替用紙の通信欄に指導教員のお名前をご記入ください。入会申請後に、在学証明書をFAX、あるいは電子メールの添付ファイルにて事務局までお送りください。上記の手続きが完了した場合のみ、初年度会費が免除されます。

●郵便振替の場合

口座名義 日本遺伝学会

口座番号 00890-1-217316

●他の金融機関（ATM）から、ゆうちょ銀行の口座へ振込・振替をされる場合

***** 他金融機関からの振替口座番号 *****

・店名 ○八九（ゼロハチキュウ）

・預金種目 当座預金

・口座番号 0217316

*お手数料に440円かかります。

日本遺伝学会第92回大会ご案内

先にご案内しましたように、本年度の大会はくまもと県民交流館パレアを会場に開催されます。

会 場：くまもと県民交流館パレア（〒860-8554 熊本市中央区手取本町8番9号
テトリアくまもとビル9階・10階）

会 期：2020年9月16日（水）、17日（木）、18日（金）、19日（土）

企画（予定）：

一般講演（口頭発表）	9月16日（水）午前
	9月17日（木）午前
	9月18日（金）午前
若手ポスター発表（学部生・博士前期課程大学院生を対象）	9月16日（水）午後
ワークショップ	9月16日（水）午後
	9月17日（木）午後
プレナリーワークショップ	9月18日（金）午後
国際シンポジウム	9月17日（木）午後
シンポジウム	9月16日（水）午後
総会・受賞講演会等	9月18日（金）午後
ナイトゼミナール	9月16日（水）夕方
懇親会	9月17日（木）夕方
公開市民講座	9月19日（土）午後

申し込み：参加と講演の申し込みは例年通りホームページからとします。

大会ホームページ：<http://gsj92.com/>

講演申し込み・要旨受付締め切り 6月12日（金）

事前参加申し込み締め切り 7月31日（金）

【第92回大会参加費、懇親会費、ナイトゼミナール参加費】

大会参加登録費

	事前参加登録	当日参加登録
一般会員	8,000円	9,000円
学生会員	0円	0円
一般非会員	10,000円	11,000円
学生非会員	0円（予稿集は当日実費販売）	0円（予稿集は当日実費販売）

懇親会費

	事前参加登録	当日参加登録
一般会員	6,000円	7,000円
学生会員	3,000円	4,000円
一般非会員	7,000円	8,000円
学生非会員	4,000円	5,000円

ナイトゼミナール参加費

	事前参加登録	当日参加登録
一般会員	3,500円	4,000円
学生会員	0円	0円
一般非会員	5,500円	6,000円
学生非会員	2,500円	3,000円

*事前参加申し込みの方は、大会ホームページ (<http://gsj92.com/>) より、事前参加登録および参加費のお支払いをお願いいたします。

クレジットカード決済またはコンビニ決済をお選びください。

*利用可能クレジットカード：VISA, MASTER 一括払いのみ

*コンビニ決済：ローソン, ファミリーマート

*お支払い手順の詳細は大会ホームページにてご確認ください。

【大会 HP】 <http://gsj92.com/>

皆様には是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日本遺伝学会第92回大会準備委員会

大会委員長 荒木喜美（熊本大学 生命資源研究・支援センター）

連絡先：日本遺伝学会第92回大会 運営事務局

(株)ジーニス コンベンションサービス 担当（白浜・飯田）

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴3-1-27第2理研ビル2F

TEL：092-722-2811（平日10:00～17:00）

FAX：092-406-2467

E-mail：gsj92@zenith-j.co.jp

惜 別

追悼 関口睦夫名誉会員 (1932-2019)

奈良先端科学技術大学院大学 真木寿治

巨星墜つ。2019年12月2日、関口睦夫名誉会員の訃報に接して、この言葉が胸に迫ってきた。私は大学院生および関口研究室の助手として関口先生に薫陶を受け、その後は離れた場所にいた期間が長いですが、常に身近に先生を感じ、また折に触れて公私にわたるアドバイスを受けてきた。偉大な先達であり生涯の師を失ってしまったが、私の心の中に今でも生き続けている関口睦夫先生のことを記して追悼の言葉としたい。

関口先生は、1955年に大阪大学理学部生物学科を卒業後、同大学大学院に進学されて以来、65年間の長きにわたって日本遺伝学会会員として活躍されてきた。我が国の分子遺伝学分野の先駆者として、また、より広く分子生物学のリーダーとして世界に誇れる数々の研究成果をあげられたことは会員皆がよく知るところである。それと同じくらいに、教育者として、関口研究室の門下生はもとより、多くの後に続く者達に科学研究の魅力や素晴らしさ、なにより研究の楽しさを身をもって伝えてこられた。また、日本遺伝学会の会長として本学会の発展に大きな功績をあげられるなど、遺伝学に関わる研究者組織を確固たるものとすることに尽力された。そのことは、本学会のみならず、日本分子生物学会、日本生化学会、日本癌学会などにおいても名誉会員の栄誉を与えられていることが物語っている。

関口先生はパッションの人であった。また、類い希なる先見性と強い好奇心から、大きな夢に向かって常に挑戦し続ける研究者であった。



第二次世界大戦後間もない頃、まだ米国での分子遺伝学の潮流は日本には及んでいなかった。

当時、大阪大学工学部の学生であった関口先生は、吉川秀男先生の講義の中で日本でも戦中に一遺伝子一酵素説が唱えられていたことを知り、そのことに衝撃を受けて工学部から理学部に転学部して吉川先生の門をたたかれたと聞いている。これからは核酸の研究が大事と考えられて、RNAとタンパク質合成の関係を突き止めるべく、情報が限られている中、カイコの絹糸腺のRNA分析に自力で挑戦され、博士論文を書かれている。

mRNAの概念が提唱される前のチャレンジングな研究に驚かされるが、当時の日本の研究環境が厳しい中でも、学生の意欲と才能を信じて自由な取組を見守れた吉川先生のお考えも大きかったであろう。その後、米国留学の期間も含めて、関口先生は大腸菌やバクテリオファージを材料にした研究に没頭され、バクテリオファージT4の紫外線損傷DNAに特異的な修復酵素(T4 End V)の研究成果で世界から大きな注目を得られた。DNA修復の現象は古くから知られていたが、実際の修復酵素を世界で初めて同定し、その酵素活性を試験管内で初めて示されたからである。修復欠損の変異ファージを用いた遺伝学的解析と生化学のアプローチを組み合わされた見事な研究成果であった。関口先生の素晴らしいところは、研究のオリジナリティを大事にしつつ、そればかりにこだわるのではなく、常に新しい方法や方向を世界中に探し求めて、自ら試されたことだと思う。T4

End Vの研究を当時発表されたばかりの遺伝子クローニングやDNAシーケンスの技術を用いてDNA修復プロセスの精緻な分子機構を解明されたことや、岡田善雄先生との協同研究でヒト色素性乾皮症細胞にT4 End Vを導入して細胞の修復欠損を回復させる実験など、一つの発見から、それをより深く、より広く展開することの大事さを多くの研究者に示された。関口先生の好奇心は尽きることなく、アルキル化DNA損傷や酸化DNA損傷の修復機構の研究を大腸菌、ヒト細胞、マウス個体などを縦横無尽に使った研究スタイルで突き進まれた。これらの研究成果により、1992年には日本遺伝学会木原賞を、1997年には日本学士院賞を受賞されている。晩年には、酸化RNA損傷と老化の関係にも取り組まれて、研究者人生の最後まで大きな夢に向かわれた。この研究が未完に終わることなく、後に続く者達が次の展開を成し遂げることを心に願って研究者人生を閉じられたのではなかろうか。

関口先生は好奇心を持つ学生、後進を尊重し、鼓舞し、応援する優れた教育者であった。1969年に九州大学理学部生物学科に新設された分子遺伝学講座の教授に就任、1985年に同大学医学部第一生化学講座、1991年に同大学生体防御医学研究所生化学部門の教授を歴任され、その間、多くの学生を育てられた。私は、関口先生の分子遺伝学の講義がとても面白く、毎回待ち遠しかったことを覚えている。関口研究室に入って知ったが、私と同様に先輩のほとんどが先生の講義を聴いて分子遺伝学を志したというのが入門の理由であった。世界で何が今進んでいるのか、どのようなことがこれから分かるようになるのか、当時の若者の好奇心に火を付ける講義であった。当時の関口研究室は、全国から血気盛んな若者が集まっていて、各地の大学や研究所の研究者の出入りも多かった。分子遺伝学の梁山泊の体であった。関口先生は、学生のやりたいようにさせ、教官と学生が上下の隔てなく自由闊達に議論する雰囲気を大事にされた。研究室セミナーでの論文紹介はいつも刺激に満ちたものだったが、関口先生が紹介される論文が毎回熱を帯びた議論になっていたことを思い出す。当時は大変困難だった海外出張に毎

年1回は出かけられて、世界の最新の情報を自ら収集され、また、ワトソン博士など国内外の一流研究者を研究室に招かれるなど、研究室のメンバーに刺激を与えることを常とされていた。そのような中で、若者の心が躍らないわけがない。福岡で研究をやっている、それは世界の研究者コミュニティの中でやっているのだという自覚を持たせてくださったことを感謝している。多くの卒業生が海外へと武者修行に出かけた所以でもある。分子遺伝学・分子生物学の日本での黎明期にファーストペンギンであった関口先生に続いて、教え子達が大きな海原へと飛び込んでいったわけである。1996年に九州大学を退官されて以来、陸門会と称して教え子や関係者が関口先生を囲む会を毎年開いてきた。昨年の12月3日には関口先生の米寿のお祝いを兼ねての集まりが計画されていたが、その前日に関口先生が急逝され、12月5日の告別式が関口先生を囲む最後の会となった。関口先生からいただいたもの大きさにあらためて気づかされ、深い感謝の気持ちとともに、皆で先生のご冥福を祈った。

関口先生は日本遺伝学会を愛し、自らのホームグラウンドとして遺伝学会とともに生きてこられた。100年の遺伝学会の歴史の中で、関口先生は65年という記録的な会員歴を持たれたことになる。このことからだけでも、関口先生は遺伝学会の変遷をもっともよく知っていたらしゃったのは間違いないであろう。科学の進展や変化は早い。学会も変化せずには続くことはない。関口先生は日本分子生物学会の創設メンバーのお一人でもあった。創設の翌年、1979年には福岡で2回目の分子生物学会大会を組織され、1989年に学会長となられ、分子生物学会の最初の20年間の中心人物として我が国に分子生物学が根付き、大きな研究分野に発展することに大きな役割を果たされた。分子遺伝学が拡張・拡大していく中で生まれた初期の分子生物学が全ての生物学分野、さらに、医学・薬学・農学・工学の分野などにも広がっていくポテンシャルを早くから気づかれていたのであろう。ご存じのように、分子生物学会の勃興は遺伝学会の変容をもたらした。その中で、関口先生は遺伝学会のあるべき姿を思い描いていらっ

しゃったのではなかろうか。分子生物学の広がりには遺伝学の中に括ることはできなかったが、遺伝学は生物学、医学、農学などの基盤となる研究分野であることは変わらない。関口先生が口癖のように言われていたのは、「分子遺伝、細胞遺伝、集団遺伝までの広範な遺伝学領域を一つの学会で議論できて、全体を見渡せるのが遺伝学会の良いところだ。」ということであった。関口先生は1991年の福岡での遺伝学会大会の大会長を、1995年からは遺伝学会の会長を4年間務められたが、私の目には先生が遺伝学会の将来の役割と姿を見越して学会の再構築と世代交代を進められたように見えた。関口先生は、2008年に遺伝学会の名誉会員になられてからも、遺伝学会大会には毎回参加されて、現役の会員と同じように発表や議論を活発にされていた姿を思い出す。2年前の奈良での第90回大会を私が世話することになった時のことである。ある日、関口先生から電話をいただいた。会員が全員参加して議論できるような分野横断型のワークショップをやってはどうかとの提案だった。私の力不足でそのようなワークショップの企画は実現できなかったが、その代わりに、参加者が一同に会することができるラン

チオンセミナーの形でシニアレクチャーを企画して、関口先生と池村先生に講師をお願いすることにした。立ち見も出る満員の会場で、関口先生の長い研究生活の中から見た遺伝学の変遷や将来の方向を大きなスケールで話をされながら、ご自身の最新の研究成果を熱く語っていただいた。「これからはビッグデータの時代になる。自分もその方向で研究を進めていくのだ。」と仰っていたので、聞く方としては背筋が伸びる思いであった。今になって思うに、お元気にされてはいたが、歩くのに少し不自由なおありになるように見えた。病魔を押してでも、遺伝学会の会員に最後に伝えたい思いを持たれて奈良まで来ていただいたのではないだろうか。最終日のシャトルバスで会場を去られる時に車窓から手を振っていただいたお姿が昨日のこのように思い出される。シニアレクチャーに参加した多くの会員にとっては、関口先生の遺伝学と研究に対する情熱あふれる姿勢が先生の記憶となり、遺伝学会の大きな財産になったのではなかろうか。在りし日の関口先生のことを心に留め、感謝と哀悼の意を表して、追悼の言葉の結びとしたい。

日本遺伝学会第91回大会 収支報告書

〈単位：円〉

収入の部			支出の部		
1. 大会参加費	147名	<u>1,228,000</u>	1. 会議準備費		<u>1,722,435</u>
1) 事前			1) 予稿集・登録証製作費 (コームラ)		882,306
一般会員	120名 × @ 8,000	960,000	2) 予稿集・ポスター作成補助等・人件費		239,400
一般非会員	7名 × @ 10,000	70,000	3) 運営委員会予算 (交通費, 日当, 懇親会等)		327,810
	(127名) 事前合計	1,030,000	4) 消耗品費 (荷物タグ, 延長コードなど)		65,999
2) 当日			5) パンフレット等 (観光コンベンション)		10,000
一般会員	11名 × @ 9,000	99,000	6) 公開市民講座 (デザイン料, ポスター等)		160,920
一般非会員	9名 × @ 11,000	99,000	7) 当日看板代		36,000
	(20名) 当日合計	198,000	2. 会議当日費		<u>1,490,506</u>
2. 懇親会参加費	165名	<u>881,000</u>	1) 会場費 (AOSSA)		8,950
1) 事前			2) 会場費 (福井大学)		335,920
一般会員	91名 × @ 6,000	546,000	3) 運営人件費		714,000
学生会員	46名 × @ 3,000	138,000	4) 休憩室 (お菓子, お茶等)		28,218
一般非会員	14名 × @ 7,000	98,000	5) YBP 賞品		11,664
学生非会員	0名 × @ 4,000	0	6) コーヒー代 (3日)		13,000
	(151名) 事前合計	782,000	7) 公開講座費		378,754
2) 当日			講演者 (旅費・謝金)		190,000
一般会員	9名 × @ 7,000	63,000	会場費 (ハビリンホール)		53,840
学生会員	1名 × @ 4,000	4,000	懇親会費		134,914
一般非会員	4名 × @ 8,000	32,000	3. ナイトゼミ費		<u>600,000</u>
学生非会員	0名 × @ 5,000	0	1) 生協代金 (4,000円 × 150名)		600,000
	(14名) 当日合計	99,000	4. 懇親会費		<u>1,725,530</u>
3. ナイトゼミ参加費	124名	<u>146,000</u>	1) 懇親会費		1,509,210
1) 事前			2) 利き酒アトラクション費		166,320
一般会員	59名 × @ 2,000	118,000	3) 司会者		50,000
学生会員	54名 × @ -	0	5. 遺伝学会補助金返還分		<u>303,289</u>
一般非会員	1名 × @ 5,000	5,000			
学生非会員	0名 × @ 3,000	0			
	(114名) 事前合計	123,000			
2) 当日					
一般会員	9名 × @ 2,000	18,000			
学生会員	0名 × @ -	0			
一般非会員	1名 × @ 5,000	5,000			
学生非会員	0名 × @ 3,000	0			
	(10名) 当日合計	23,000			
4. 予稿集販売		<u>0</u>			
	0冊 × @ 2,000	0			
5. 展示・広告収入 (税込み)		<u>390,000</u>			
1) 展示費	3小間 × @ 50,000	150,000			
2) 広告費					
裏表紙 (カラー)	2件 × @ 30,000	60,000			
表紙裏 (カラー)	1件 × @ 30,000	30,000			
後付け (A4)	4件 × @ 20,000	80,000			
後付け (A4半ページ)	7件 × @ 10,000	70,000			
6. 補助金		<u>3,196,760</u>			
1) 大会準備金 (日本遺伝学会)		1,000,000			
2) ナイトゼミ補助金 (日本遺伝学会)		240,000			
3) 福井大学補助金		100,000			
4) 福井県立大学補助金		250,760			
5) 宿泊補助金 (福井観光コンベンションビューロー)		1,606,000			
7. 振替口座利子	0	<u>0</u>			
収入合計		5,841,760	支出合計		5,841,760

ISEGB 2019 派遣学生 体験記

日本遺伝学会では台湾・日本間の学生の相互交流の一環として、2014年度から Taiwan Society of Evolution and Computational Biology が毎年開催する International Symposium on Evolutionary Genomics and Bioinformatics (ISEGB) に学生2名を選考し、派遣して参りました。昨年度から、派遣された学生から日本遺伝学会に提出いただいた報告書をGSJ コミュニケーションズに派遣体験記として掲載しております。今年度も昨年11月3-4日の日程で開催された ISEGB2019 のシンポジウムの様子や研究室訪問での経験など報告いただきました。2020年度も派遣学生を公募する予定ですので、皆さん、この体験記を参考にふるって応募ください。

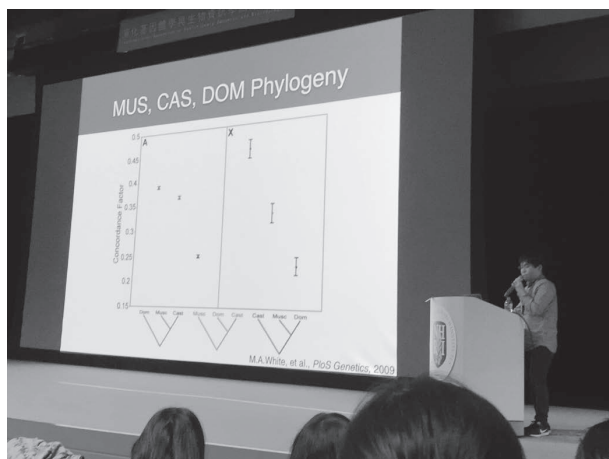
企画集会幹事 中別府雄作

ISEGB 2019 派遣学生 活動報告書

北海道大学大学院情報科学院
情報科学専攻博士後期課程1年
藤原 一道

2019年11月3日および4日に開催された進化遺伝学と生物情報学国際研討会 2019 (International Symposium on Evolutionary Genomics and Bioinformatics 2019: ISEGB2019) に日本遺伝学会からの派遣学生として日本・台湾間での学生の相互交流の一環で参加しました。本シンポジウムは、台湾大学 (National Taiwan University) と台湾進化と計算生物学会 (Taiwan Society of Evolution and Computational Biology) が主催する、進化生物学とバイオインフォマティクスに関わる研究を検討する国際会議でした。約150名以上の台湾内外の研究者が参加し、比較的小規模ながらも盛んに研究の意見交換を行っている印象を受けました。また今年は、数多くの海外の著名な研究者が参加しており、彼らの招待公演は非常に有意義な内容で大変勉強になりました。進化生物学とバイオインフォマティクスが主な発表分野でしたが、他にも理論進化学や生物多様性、または分子生物学に関する発表など様々な分野の研究者も発表に参加していました。ISEGB2019 の前日には招待公演者の Anton Nekrutenko 博士による Galaxy Workshop が開催され、一部のシンポジウム参加者と私を含む日本から派遣された学生が参加しました。ゲノムビッグデータ解析プラットフォームである「Galaxy」を用いた解析手法の紹介と、プログラミング言語「Python」を用いた実際の統計解析の演習を行い、ツールの使い方だけではなく、解析を行う必要性の背景も含めて多くのことを学びました。

日程としては、ISEGB2019 への参加後は私が希望した2つの研究室への訪問を行いました。最初に、台南の國立成功大學 (National Cheng Kung University) の黄兆立 (Chao-Li Huang) 博士の研究室を訪問しました。この研究室ではメタゲノム解析、特に土壌におけるマイクロバイオーム解析を主に研究していました。台南には日程的にたった1日だけの滞在だったので限られた時間ではありましたが、Chao-Li Huang 博士と私の研究に関するディスカッションや、彼の研究室の学生による研究についてもディスカッションを行うことができました。また、彼の好意で蔣鎮宇 (Tzen-Yuh Chiang) 博士ともお会いすることができ、台湾における大学教育や研究基盤に関して実際の現場の研究者として様々なお話を伺うことができました。2つ目は台湾大学の丁照棟 (Chau-Ti Ting) 博士の研究室を訪問しました。Chau-Ti Ting 博士の研究室は世界中のショウジョウバエを集めて管理しており、それを用いてショウジョウバエの種分化について集団遺伝学や分子生物学を用いた研究全般を行っていました。また台湾大学では彼女の好意で李承靚 (Cheng-Ruei Lee) 博士の研究室も訪問させていただきました。Cheng-Ruei Lee 博士の研究室はシロイヌナズナの起源を集団遺伝学的な解析アプローチを用いて探る研究を行っており、手法や解析方法に関して共に議論することができ



ISEGB2019 にて

ました。

今回の派遣で最も有意義だったのは多くの台湾の大学院生と触れ合い、研究に関してや将来の目標に関して色々と話ることができた事でした。台湾は、日本と同様に博士の学位を取得した後のアカデミアの就職先が非常に高い競争率であり、研究者として生き残ることが難しいため、博士を卒業しても自身の研究とは全く関係のない分野の企業に勤めるか、もしくは国外にポストを求めて出て行くかという2択であることが現状の問題としてあるようです。実際に、台湾大学の教員はアメリカなどの海外の大学や研究機関で博士号を取得したり研究活動を行っていたりしていた研究者が多く在籍しており、今回触れ合った大学院生達も卒業後には海外で活躍したいという非常に強い熱意を感じることができました。

たった一週間の訪問期間でしたが、ISEGB2019への参加を含めて様々な研究室に訪問することができ、台湾の文化に触れるだけでなく多くの先生・学生と研究や研究姿勢に関して色々議論することができ、非常に有意義な滞在でした。台湾の学生から感じた熱意を刺激に、私もこれからの研究活動についてさらに熱意を持って取り組んでいきたいと思いました。

藤原 一道 (ふじわら かずみち)

北海道大学工学部情報エレクトロニクス学科卒業後、同大学大学院情報科学研究科生命人間情報科学専攻を修了。現在は同大学大学院情報科学情報科学専攻に所属し博士後期課程一年(2019年度現在)。

ISEGB 2019 派遣学生 活動報告書

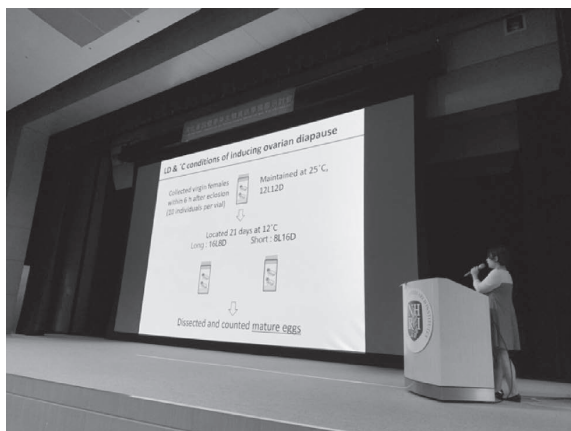
首都大学東京理学研究科
生命科学専攻博士前期課程1年
藤近 敬子

日本遺伝学会からの派遣学生として、2019年11月3日、4日に開催されたISEGB2019 [International Symposium on Evolutionary Genomics and Bioinformatics 2019]に参加した。ISEGBは進化や分子生物学、バイオインフォマティクスに関連する研究発表を行う国際会議である。私は台湾に6日間滞在し、前半はGalaxy WorkshopとISEGB2019に参加し、後半は国立台湾大学のDr. Chau-Ti Tingの研究室への訪問とAcademia SinicaのDr. Fang Shuの研究室を訪問した。台湾滞在中のすべての経験が私にとっては大きな刺激となる貴重なものであった。

まず前半のワークショップでは、RNA-seqなどの解析ツールとしてGalaxyを扱った。現在私はRNA-seqを行っており、今回のワークショップで解析に関して新たな知見を得ることができたのは幸運なことであった。そして前半のメインであるISEGB2019ではすべての研究発表が英語で行われ、内容もバイオインフォマティクスを中心にとっても充実したものであった。私は口頭発表で参加し、質問時間も休憩時間も様々な方と議論ができ、自分の研究を深めることができた。また、自分の研究分野に近い方だけではなく、様々な分野の方とポスター発表を通じて知り合うことができ、またポスターのコアタイムでは議論を通じて視野を広げることができた。ISEGBに参加して強く感じたのは、興味や疑問があれば、質問を躊躇せずに行うことの大切さである。ISEGB

は内容が多岐にわたっているため、また、私は語学が不得手のため、最初は質問することに不安があった。しかし、発表を聞いて、興味関心を相手に示す、議論のきっかけともなることができるのは質問である。ポスター発表では躊躇したものの、質問を口に出せば発表者の方は丁寧に説明して下さった。自分の口頭発表で質問してくれた方は休憩時間により深く話すことができた。これらの経験を通じて、今後自分が学会に参加するときは、より幅広い興味や関心を持って様々な人に質問を行いたいと感じた。

後半のDr. Chau-Ti TingとDr. Fang Shuの研究室は自分と同じショウジョウバエを扱っているため、教授や学生達と実験手法や飼育方法などの情報交換を行うことができた。また、台湾大学や



Academia Sinicaには留学制度や奨学金制度が複数存在し、充実したものであることを知った。国や研究機関からの援助が制度として整っているならば、学生も留学や進学を視野に入れやすくなり、とても羨ましいと感じた。今回の訪問の際に、Academia Sinicaでは奨学金のためのポスターコンペティションを開催しており、見学することができた。学生達が自分の研究のアピールを生き生きと行う姿が印象的で、研究に対する意欲、関心の高さが視えた。さらに、研究室の学生達とは実験だけではなく、台湾の歴史や情勢、研究室での生活、進路や恋愛など様々な話をし、とても楽しく過ごすことができた。



今回の訪問は、たくさんの学びと出会いがあり、とても実りのあるものであった。今回の訪問で得たものを糧に今後の自分の研究を頑張っていきたい。

藤近 敬子（ふじちか たかこ）

東京都練馬区出身。首都大学東京都市教養学部卒業。首都大学東京理学部生命科学専攻博士課程前期1年在学（2019年度現在）。生物の環境適応や進化に興味がある。趣味はバドミントン、バレーボール、書道。

第2回日本遺伝学会春季分科会の中止について

国立遺伝学研究所で2020年3月9日（月）に開催を予定しておりました第2回日本遺伝学会春季分科会ですが、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念から中止とさせていただきます。参加を予定されていた方々、準備にご尽力いただいた方々には大変ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

日本遺伝学会春季分科会運営委員会
平田たつみ、野々村賢一、小林武彦

第19回 遺伝学談話会報告

日 時：11月21日～12月19日の毎週木曜夕方18：30～20：30

場 所：TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前「すずらん」

第19回遺伝学談話会は、公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）医療関連新事業創出プロジェクト運営事業と共催でBI LAB¹⁾ 人材育成講座（全5回）を開催した。人材育成講座の概要は以下の通り。

第1回 「SAPPORO BI LAB」が目指すBio×ITの世界 磯 真査彦（ラボ長・株式会社ノースポイント）・中原 拓（株式会社ファストトラックイニシアティブ ベンチャーパートナー）参加者34名（受講者25名）。「SAPPORO BI LAB」の概要／バイオの市場規模とDNA・IT/AI・ゲノム編集における技術の革新／スタートアップが中心となったイノベーションのトレンド／バイオ×ITで注目する領域と世界と日本の事例（デジタルヘルス、デジタルセラピューティクス、AI創薬、プログラミング医療、農業、福祉）／バイオ×ITの事業を始めるためのチーム作り（HACKER・HIPSTER・HUSTLERの関係構築）と戦略／北海道におけるBIビジネスの振興に向けてと札幌におけるエコシステムの形／「SAPPORO BI LAB」の目的。

第2回 個人ゲノム情報の理解に役立つバイオインフォマティクス 遠藤俊徳（北大）参加者27名（受講者17名）。バイオインフォマティクス技術と守備範囲／次世代シーケンサーとバイオインフォマティクス／ゲノムデータと個人情報・個別医療／比較ゲノム解析。

第3回 ヒトゲノムの多様性をどのように解析するのか 長田直樹（北大）参加者19名（受講者13名）個人差とゲノム情報解析／次世代シーケンサーを使ったゲノム情報の取得と基礎的解析／遺伝統計学・ゲノムワイド解析（GWAS）／遺伝情報のプライバシー、倫理・法律の壁。

第4回 バイオとITの融合で生まれる価値・プラットフォーム技術のビジネスモデルと成功のカギ 「バイオとITの融合で生まれる価値」宇佐美克明（株式会社デジタルガレージ）、「プラットフォーム技術のビジネスモデルと成功のカギ」橋本 遙（同）。参加者28名（受講者19名）。「バイオ×IT」の市場規模とイノベーションの起る背景／バイオヘルス事業の事例紹介／「デジタル×診療」の未来と Digital Therapeutics／バイオテクサービスの進化とキーワード／「ITとバイオの融合」における事例紹介／バイオヘルス事業における「Product Market Fit（PMF）」と「Minimum Viable Product（MVP）」の重要性。

第5回 バイオビジネスの現状と将来・バイオビジネスにおけるオープンイノベーションの活用～伊藤勝彦（技術戦略マネジメント・オフィス）「バイオビジネスの現状と将来」、飛谷篤実（同）参加者26名（受講者18名）製薬・証券・企業再生における実績事例／バイオ（医薬品）産業とは／バイオ（医薬品）産業×AI／「イノベーション」の概念／クローズドとオープンイノベーションにおけるビジネスモデル事例／資金・知財・人材のマネジメント。

以下のような活発な質疑応答があった。Q：ベンチャークラスター成功のカギは？ A：リスクを恐れずにできるかどうか。Q：学生がスタートアップするには？ A：知識・思考・経験が重要。博士課程まで進み学んでほしい。Q：染色体異常のAI診断は可能か？ A：統計モデル等を含め今後の課題。Q：ビジネスモデルの役割分担は？ A：様々なパターンがある。シーズ実用化パートナーを積極的に開拓する必要がある。

第1回と第4回の終了後には講師と受講者の交流イベントが開催され、全講義終了後には受講者への修了証書授与式が行われた。遺伝学会からは一般会員2名と新規入会学生3名が参加した。（遠藤俊徳）



1) BI LAB は、BIO と IT の融合による事業創出を目指し、札幌を中心とする産学官連携の試みで、令和元年10月に設立された。

日本遺伝学会木原賞および奨励賞候補者推薦のお願い

下記の規程に添って2020年度木原賞および奨励賞候補者推薦をお願いします。

【推薦書作成要領】

本誌に掲載された様式に従って作成してください。なお、同様式は遺伝学会ホームページからダウンロードしていただけます。いずれも用紙はA4判を使用して下さい。

(木原賞) 候補者の主な発表論文のリストを別紙にて作成し、うち主要な論文5編3部ずつを郵送して下さい。また、候補者推薦書ファイル、業績リストファイル、論文のPDFファイルをメールの添付ファイルにてお送りください。

(奨励賞) 1. 候補者の主な発表論文のリストを別紙にて作成し、うち主要な論文2編3部ずつを郵送して下さい。

2. 自薦の場合も同様式に従って作成して下さい。

(2010年から年齢制限はなくなりました)

また、候補者推薦書ファイル、業績リストファイル、論文のPDFファイルをメールの添付ファイルにてお送りください。

【提出期限】

2020年5月15日（金）必着

提出先：〒411-8540 三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内
日本遺伝学会 Tel & Fax 055-981-6736

日本遺伝学会会長 小林 武彦

電子ファイル送付先：Email: japgenet@nig.ac.jp

*なお、木原賞および奨励賞の受賞者には当学会誌 *Genes & Genetic Systems* に英文総説の執筆と、その年に開催されます大会で受賞記念講演をお願いしております。

日本遺伝学会学会賞および奨励賞に関する規程（抜すい）

（目的）

遺伝学の進歩を促し、すぐれた研究業績を一般に知らせるために学会賞および奨励賞を設定する。

（賞の種類）

1. 日本遺伝学会木原賞
遺伝学の分野ですぐれた業績をあげた者（原則として会員）に授与する。
2. 日本遺伝学会奨励賞
遺伝学の特定の分野ですぐれた研究を活発に行い、将来の成果が期待される会員に授与する。

（賞の内容）

1. 日本遺伝学会木原賞
賞状、メダルおよび副賞としての賞金からなる。
2. 日本遺伝学会奨励賞
賞状および副賞としての賞金からなる。

（賞の選考）

賞の選考は下記に定められた選考委員会と選考方法によって行う。

1. 選考委員会
全会員を対象として評議員会により選出された若干名と、これに会長が加わり、選考委員会を構成する。会長以外の選考委員は任期を2年とし、連続して2期（4年）をこえ選考委員としてとどまることはできない。選考委員会の委員長は会長がつとめるものとする。
2. 選考方法
会員から推薦された候補者について選考委員が慎重に審査を行い、受賞者を決定した上で評議員会の承認を得るものとする。日本遺伝学会木原賞受賞者については原則として毎年1名とするが、適当な候補者がいない場合は授賞は行わないものとする。
日本遺伝学会奨励賞については毎年2名以内を選ぶものとする。

附 則

昭和57年11月20日	日本遺伝学会総会承認
昭和60年10月14日	一部改正
昭和63年2月6日	一部改正
1989年10月14日	一部改正 日本遺伝学会総会承認
1992年10月23日	一部改正
2005年4月4日	一部改正
2009年9月17日	一部改正 日本遺伝学会総会承認

2020 年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書

2020年 月 日

推 薦 者	
(ふりがな) 氏 名	印
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

受 賞 候 補 者	
(ふりがな) 氏 名	(西暦) 年 月 日生
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

【略 歴】	
-------	--

受賞候補者（ ）氏の推薦理由等	
研究題目	(和文)
	(英文)
【推薦理由】	
<p>(紙面不足の場合は別紙 [A4 判] に記載し、添付して下さい)</p>	

注：候補者の主な発表論文のリストを別紙（紙は A4 判を使用）に掲載し、うち主要な論文 5 編 3 部ずつを郵送して下さい。ここに示した推薦書に必要な情報が記載してあれば、用紙（A4 判）は別紙でも結構です。

提出期限： 2020 年 5 月 15 日（金）必着

提出先： 〒411-8540 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会
TEL & FAX 055-981-6736

2020 年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書

2020年 月 日

推 薦 者 (自薦の場合、職名、連絡先は不要)	
(ふりがな) 氏 名	印
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

受 賞 候 補 者	
(ふりがな) 氏 名	(西暦) 年 月 日生
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

【略 歴】	
-------	--

【遺伝学会における活動歴】	
---------------	--

受賞候補者（ ）氏の推薦理由等	
研究題目	(和文)
	(英文)
【推薦理由】	
<p>(紙面不足の場合は別紙 [A4 判] に記載し、添付して下さい)</p>	

注：(1) 候補者の主な発表論文のリストを別紙（紙はA4判を使用）に掲載し、うち主要な論文2編3部ずつを郵送して下さい。ここに示した推薦書に必要な情報が記載してあれば、用紙（A4判）は別紙でも結構です。

(2) 自薦の場合もこの用紙を使ってください。

提出期限： 2020年5月15日（金）必着

提出先： 〒411-8540 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会

TEL & FAX 055-981-6736

◆ 会 員 異 動 ◆

新入会・再入会

中 村 峻 大	060-0814	北海道札幌市北区北14条西9丁目 北海道大学工学部情報エレクトロニクス学科生体情報コース情報生物学研究室
古久保 哲 朗	230-0045	横浜市鶴見区末広町1-7-29 横浜市立大学大学院生命医科学研究科
西 森 み き	152-8550	目黒区大岡山2丁目12-1 W3-43 612号室 東京工業大学 生命理工学院 二階堂研究室
滝 澤 紘 樹	060-0814	札幌市北区北十四条西9丁目 情報科学研究院棟9-07号室 北海道大学大学院 情報科学研究科 生命人間情報科学専攻 情報生物学研究室
笹 沼 博 之	606-8501	京都府京都市左京区吉田近衛町 京都大学医学研究科放射線遺伝学

(連絡先自宅のため不掲載)
細川竜聡, 眞鍋 柁, 菅谷夏希, 清水雅斗

退 会

按田瑞恵, 山本大賀, 井上拓馬, 野坂達哉, 佐賀友弥, 今中千秋, 北 寛貴, 平井真大, 松本美歩, 安田江里奈, 平川 健, 二河成男, 石森啓右, 遠藤伶奈, 宮木至道, 永尾通章, 石下 聡, 堀 生実, 山下仁義, 野方美歩, 妙本耀駿, 富永 晃, 布瀬翔平, 北野翔平, 園田 悟, 堀口 理, 野沢紘佑, Jo Minji, 西崎絵理, 亀田雅博, 岸 伸行, 小林佑斗, 清野健司, 稲田隆人, 朴 玉子, 木本紗希, ミノヴィッチ あに香, 河合 翼, 斎藤 茂, 各務 孝, 穂積俊矢, 山田 芳, 糸川 敦, 永井千駿, 小坂健悟

寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 90	No. 2-3	(2020)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 49	No. 6	(2019)
NEWS OF NATIONAL ACADEMY OF SCIENCES OF THE REPUBLIC OF KAZAKHSTAN		No. 4-5	(2019)

日本遺伝学会会則

- 第1条 本会は公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会は事務局を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。
- 第4条 本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業（退職者は前職）を明記して本会事務局に申し込むこと。
- 第5条 本会会員は普通会员、シニア普通会员、シニア永年会員、学生会員、教育会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。ただし、年会費滞納が当該年度を超えて1年以上におよぶものは会員資格を停止する。
- 1) 普通会员は年会費10,000円を納める。
 - 2) シニア普通会员は、定年退職して常勤職でないことを申し出た者とする。以降の年会費6,000円を納める。会長および評議員の被選挙権は有しない。
 - 3) シニア永年会員は、当学会に5年以上在籍する65歳以上の普通会员もしくはシニア普通会员が、初回のみ30,000円の永年会費を納入して資格変更でき、以降の会費および大会参加費の納入は免除される。会長および評議員の被選挙権は有しない。
 - 4) 学生会員は、在学証明書またはそれに代わるものを提出することで、初年度の年会費を免除し、2年目以降は3,000円を納める。
 - 5) 教育会員は、小・中・高等学校等の教育機関の教員を対象とし、年会費2,000円を前納する。会長および評議員の被選挙権は有しない。
 - 6) 機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を納める。
 - 7) 普通会员、シニア普通会员、学生会員および教育会員が休職および海外留学をする期間の休会を申し出たときは、その期間中の年会費を免除する。
- 第6条 本会は次の者を総会の決議により名誉会員の称号、あるいは特別功労賞を授与することができる。本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第7条 本会は隔月1回 Genes & Genetic Systems を発行する。印刷体は機関会員、賛助会員、および希望する普通会员と学生会員に配布する。印刷体の送付を希望しない普通会员と学生会員は年会費を500円減額する。特に希望がある場合を除き、シニア普通会员およびシニア永年会員には印刷体を送付しない。
- 第8条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員選挙および他の議事を行い、講演会では普通会员、シニア会員、準会員および名誉会員の研究発表をする。大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第9条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第10条 本会は会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議員若干名をおく。
- 1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
 - 2) 会長は、評議員が普通会员および学生会員の中から選出した複数の候補者から、普通会员、シニア普通会员、シニア永年会員、学生会員による直接選挙によって選出される。
 - 3) 評議員は、普通会员および学生会員の中から、普通会员、シニア普通会员、シニア永年会員、学生会員による直接選挙で選出される。
 - 4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
 - 5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
 - 6) 会長は評議員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議員会に出席するものとする。
 - 7) 評議員会は会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議員の過半数をもって議決する。
 - 8) 会長ならびに幹事により幹事会を構成し、会長がこれを代表する。
 - 9) 幹事会は、学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に、会務を執行する。
 - 10) 会計監査は、学会の会計を監査する。
- 第11条 役員および評議員の任期は2カ年とする。会長および評議員は連続三選はできない。
- 第12条 本会の事務年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 付則 平成7年10月13日に第5条を改正し、平成8年1月1日から施行する。
- 付則 平成21年9月17日に第5条を改正し、平成22年1月1日から施行する。
- 付則 平成26年9月8日に第5条、第7条、第8条を改正し、平成29年1月1日より施行する。ただし、Genes & Genetic Systems の印刷体の送付を希望しない場合の会費減額は、平成30年4月1日より行う。
- 付則 平成29年9月12日に第5条を改正し、平成30年4月1日から施行する。
- 付則 平成31年3月8日に第12条を改正し、平成31年4月1日から施行する。
- 付則 令和1年9月12日に第1条、第3条、第4条、第5条、第6条、第7条、第10条を改正し、令和1年9月13日から施行する。

<p>Genes & Genetic Systems 第95巻1号（付録） 2020年4月15日発行 非売品 発行者 小林 武彦 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800</p> <p>発行所 公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内</p>	<p>学会事務取扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会 https://gsj3.org (電話・FAX 055-981-6736 振替口座・00890-1-217316 加入者名・日本遺伝学会)</p> <p>国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えます。</p>
---	---